

大きな魚をゲットしたカフセミ。6月13日、八王子・湯殿川6月の野鳥定期カウントで出会い。鮎をゲットしたのかと思い、拍手を送りましたが、魚に詳しい方に確認していただいたら「オイカワ」とのこと。それにしても大物を啜えていました。湯殿川は目の前でこのような写真が撮れるほど人と鳥の関係が近いです。粕谷和夫の観察日記より

紅葉台



新聞

第250号

2026年

9月5日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



ホタルブクロが咲く頃にホタルが発生します。私はこの時期に八王子市内を流れる5河川でゲンジボタルが何匹発生しているかのカウント調査をしています。2001年から始めたので今年

で26年目となりました。調査は自転車で各河川の上流端を19時30分に出発して下流に向かって堤防をゆっくり自転車で走り、点滅しているホタルを見つけたら肉眼でホタルをカウントします。今年の1回目は6月14日、湯殿川で行いました。町田街道の湯島橋から国道16号の住吉橋まで約5kmで79匹のゲンジボタルをカウントしました。調査が終わり自宅にたどり着いたのは22時30分でした。



6月13日、八王子・湯殿川の野鳥定期カウントでカタクリ橋にさしかかった時、**街路樹のシナノキ**が満開になっていました。この木は菩提樹の仲間で「シナ」は「支那ソバ」の「支那」でなく、「信濃」の「シナ」でもなく、樹皮が「シナ皮」とよばれ、繊維が強く主にロープ（縄）、かご、編み袋の材料とされてきたことに由来するとウェブに説明がありました。日本固有種で淡黄色の小さな花からは良質な蜂蜜が採れるらしいです。

八王子・宇津貫団地調整池で今年も**アサザ**が咲き出しました。スイレンに似た切れ込みのある浮葉植物。池や水路の護岸工事や水質汚濁などにより、各地で個体群が消滅、縮小し、準絶滅危惧種になっているが宇津貫では年々増加し、今では調整池の水面の半分以上を占めています。夏から秋にかけて黄色の花を咲かせるので、今年も秋まで楽しめます。冬は渡り鳥のヒドリガモがやって来て、葉を盛んに食べます。



6月16日、都留市十日市場・夏狩湧水群を歩きました。ここは富士山の雪解け水が10ヶ所以上からこんこんと湧き出ている所。富士急十日市場駅から歩いて行くと長慶寺があり、境内の湧水池にバイカモが咲いていました。**バイカモ (梅花藻)**は冷涼で流れのある清流でなければ育たない花。この日は田原の滝、太郎・次郎滝など水量豊かな滝もめぐり、涼しさを感じる散策でした。

6月17日、神奈川県座間谷戸山公園に行きました。この公園は縄文時代からの人の暮らしが営まれていた土地で、谷戸には溜池跡と小さな田んぼが残っていました。園内は階段を無くし、車椅子で回れるように整備されていました。溜池跡の水鳥の池に**アオサギの若鳥**が1羽いて、水中の獲物を捕るだけでなく、頭上に飛んできた蜻蛉を頭を回して追いかけるユーモラスな姿もありました。



前日の蜻蛉を狙うアオサギがいた座間谷戸山公園に**オオミズアオ**もいました。「淡い青緑色の大きな羽の蛾です」。「蛾は苦手だけど、オオミズアオだけは別格」と

言われるほど人々を魅了します。この蛾には「口」がありません。幼虫の間に蓄えた栄養だけで生きるため、成虫としての寿命はわずか1週間から10日ほど。月明かりの下で青白く光りながら飛ぶ姿は、夜の女王。古くから「幸運の象徴」や「神の使い」といわれていたようです。

6月14日から湯殿川で始めた26年目のホタルカウント調査は6月22日の城山川で5河川の調査が終了しました。今年のホタルカウント数は昨年の半分以上、極めて少なかったです。それはゲンジボタルの羽化時期が「昨年より10日以上早かったため」と推定されます。私の調査時期がホタル発生ピーク過ぎてからでした。ホタル調査が終わり23日は川町谷戸に行きました。田植えの終わった田んぼの奥で**ヒメコウゾ**の実をたべました。桑の実の仲間とても甘いです。



にしいあんこ (あんこ協会会長) の豆大福の話

みんな大好き豆大福と言うが、そもそも大福自体は江戸小石川にてその腹持ちの良さから(「大きな花の餅」と言う名前で売られ始め、転じて「大福餅」となったと言われている)。豆大福に関しては、おそらくそれ以降の発祥であるが、塩ゆでされた赤えんどうが大福のおおらかな甘みをさりげなく引き立ててくれるのがいじらしくも愛しいのである。この豆大福の構成はまるで世知辛い現代社会を懸命に生きる我々の物語だ。塩ゆで赤えんどうさながらに我々に時折降りかかる少ししょっぱい経験が人生と言う名の大きい福を引き立てる生粋なスパイスとなり、噛み締めるほどに甘しょっぱくも奥ゆかしい味わいとなるのである。思わずため息が出てしまうのは私だけだろうか。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。